

全国的政治新聞の意義

共通の新聞は、多種多様な活動の成果を総括し、それによって、すべての道がローマに通じるように**すべて**革命に通じている数多くの道に沿って人々を倦むことなく駆りたておしすすめる、唯一の規則的な全国的事業だからである……この新聞は、階級闘争と人民の憤激の一つ一つの火花を吹きおこして全般的な火事にする巨大な鍛冶用ふいごの一小部分となるであろう。それ自体ではまだはなはだ罪がなく、はなはだ小さいが、しかし規則的で、完全な意味で**共同的な**この事実を中心にして、試練を経た戦士の常備軍が系統的に選抜され、訓練されていくであろう。まもなくこの共同の組織的建築物の足場あるいは仮囲いにそって、わが革命家たちのなかからいくたの社会民主主義的ジェリヤーボフが、わが労働者たちのなかからいくたのロシアのベーベルが身をおこし、すすみでてくるであろう。そして、彼らは、動員された軍隊の先頭に立って、ロシアの汚辱と禍とに対決するために全人民を決起させるであろう。

これこそ、われわれが夢想すべきことである！

第五卷 なにをなすべきか？ P548-551

なにをなすべきか？

われわれの運動の焦眉の諸問題

「……党派闘争こそが、党に力と生命をあたえる。党があいまい模糊としており、はっきりした相違点がぼやけていることは、その党の弱さの最大の証拠である。党は、自身を純化することによってつよくなる。……」

(1852年六月二十四日付ラッサールからマルクスへの手紙から)

1901年秋から1902年二月にかけて執筆
1902年三月に単行本としてはじめて発表
単行本のテキストにもとづき論集、ヴラヂーミル・イリイン著
『十二年間』、1907年、所収のテキストと照合のうえ印刷

コメント

全国的政治機関紙「赤旗」は、ブルジョアジャーナリズムとは違って、労働者の多種多様な活動を反映し、その活動がすべて革命に通じるように倦むことなく駆り立てるものでなければならない。あらゆる重要な、また、日常的なことがらを科学的社会主義者の目で見、事実に基づいて分析し、理論化し、暴露し、宣伝・煽動の武器とならなければならない。そして、社会民主主義者はこれを武器として戦うことにより、一層きたえられ、その隊列の質と量を強化しなければならない。